

# 新潟県優良リサイクル事業所 表彰 受賞企業のご紹介

株式会社 熊谷 ・ 株式会社 ケーゼム プラスチック包装の技術開発を通じて3Rに貢献



## 受賞理由

プラスチック包装における環境配慮材料の活用や薄肉化等を通して、プラスチックの3Rに取り組んでいる。

<連絡先> 株式会社 熊谷

【住所】新潟市中央区東大通2丁目3番10号

【TEL】025-244-5161 【HP】<https://www.kumagai-co.com/>

## 受賞の取組み

両社では、食品用途をはじめとするプラスチック包装の製造・販売を行っています。食品用途のプラスチック包装は、内容物や輸送手段、保存方法などの条件によって、その仕様は多種にわたります。両社では様々な包装を対象に、環境配慮材料の活用、薄肉化、サイズダウン等を通して、石油由来プラスチックの使用量削減に取り組んでいます。

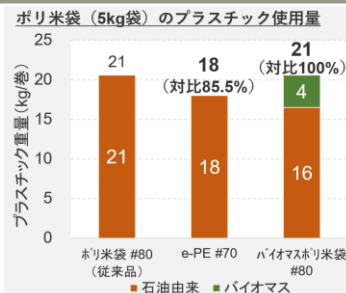


フィルム成型の様子

## 注目技術・成果

長きに渡り携わる米袋事業においては、従来よりフィルム強度を高めて薄肉化した米袋「e-PE」、植物等の有機資源（バイオマス）由来のプラスチックを配合した米袋をそれぞれ自社開発し、販売しております。これらの取り組みにより、石油由来プラスチックの使用量を削減するとともに、包装の製造や廃棄に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献しています。

また、原料にバイオマスを含む印刷インキ（バイオマスインキ）を使った包装の市場展開にもいち早く取り組み、2015年より米袋用のインキとして一部採用して以降、様々な包装で採用を増やしてきました。2021年には、自社で使用するインキの約90%がバイオマスインキに切り替わっています。



## 展 望

石油由来プラスチック使用量を削減した米袋は、提案に賛同いただいた米卸業者様の商品、大手流通企業様のプライベート商品に採用され、全国のスーパーに展開されております。また、今日ではあらゆる商品でバイオマスインキの認証マークや説明表示が目に残るようになり、過去の当社の取り組みもその一助になったと考えております。環境配慮型の包装設計に関する相談は年々増えており、今後も製品開発と顧客への設計提案を継続することで、更なる製品展開に取り組むこととしています。



フィルムへの印刷の様子

# 新潟県優良リサイクル事業所 表彰 受賞企業のご紹介

日本化薬株式会社上越工場 社内組織の取組と廃棄物処理業者との連携で3Rを推進



## 受賞理由

部門横断組織を先導役とした社内の取組に加え、廃棄物処理業者への働きかけや連携により、3Rを推進している。

＜連絡先＞ 日本化薬株式会社上越工場

【住所】上越市板倉区稲増字下川原192-6

【TEL】0255-78-4979 【HP】<https://www.nipponkayaku.co.jp/>

## 受賞の取組み

日本化薬(株)上越工場は、液晶表示用等の偏光フィルムを製造している化学工場です。製造工程で発生する廃樹脂、廃プラスチック、廃液等の発生抑制とリサイクルに取り組んでいます。

工場全体で取組を進めるため、平成25年に部署横断組織となる「産業廃棄物削減部会」を設立しました。同部会メンバーは、経験と知見をもった各職場のリーダークラスで構成され、産業廃棄物量の削減、リサイクル率向上、最終処分率低減などを議論し、従業員への産業廃棄物削減啓発活動など、工場全体の先導・牽引役として活動を継続しています。



部署横断組織：産業廃棄物削減部会

## 注目技術・成果

製造工程では主に廃樹脂、廃プラスチック、廃液といった廃棄物が発生します。廃棄物処理業者と交渉や協議をした結果、廃樹脂については製造現場で分別廃棄することで、粘性の低いものを再生シンナーにリサイクルできるようになりました。廃プラスチックは4種類に分別することで、リサイクルや有価引き取りが可能となりました。

また、場内に廃液のろ過装置を導入し、処理水を再利用することで廃液量を8割削減しました。その結果、廃棄物の排出量が大きく減少するとともに、令和5年度にはリサイクル率90%を達成しました。



廃液場内ろ過装置による再生

## 展 望

リサイクル処理が可能な廃棄物処理業者との新規契約や、排出側として既存業者へリサイクルの必要性やニーズを説明するなどの働きかけを行なっています。リサイクルを可能とするための受入条件等の協議により、リサイクル率の向上に取り組んでいます。

取引のある廃棄物処理業者のうち約8割は県内企業となっており、廃棄物処理業者と連携した取り組みは、同種廃棄物リサイクルの好事例として他事業者への波及が期待されます。



リサイクル処理取組の連携